
キミがいるから生きていける...

桜実保乃佳

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

キミがいるから生きていける…

【Nコード】

N5191L

【作者名】

桜実保乃佳

【あらすじ】

組織を倒した後新一、蘭は付き合い始めた志保はそれを見て
苦しい気持ちになる
そして哀がとつた行動とは…？

CPは新蘭↓新志です

第1章 〽哀side〽 (前書き)

2回目の新志(〽哀〽)です!!

第1章 ㄥ哀sideㄥ

組織を倒したあと、私は彼にA P T X 4 8 6 9をあげた
工藤君は喜んで服用した

あ、勿論完全版よ…

それからしばらくして工藤君と蘭さんは付き合い始めた

私はよく考えた上で解毒剤を服用し、宮野志保の姿に戻った

これ以上、灰原哀として迷惑かけたくないから…

ココから消えることが出来れば消えてしまいたい…。

でも、そんなコトいえない…

お世話になった皆に、迷惑かけたくない…

阿笠博士・うるさいけど大阪のお友達・警察の方々などに…

よく、工藤君は蘭さんと一緒によく家に遊びに来る…

私は見るたびに胸が締め付けられるように苦しくなる

見ていたくない…。

苦しくなるから…

そして

私の居場所が無いように思えるから…

第1章 哀side（後書き）

Happy「こんばんわ!!」

志保がそんなコト感じていたなんて…。」

志保「私はこれからどうなるのかしら?。」

Happy「ヤバイ行動に突っ走る…。」

志保「ちよつと怖いわね…。」

Happy「第2章もヨロです!!」

平成22年5/20 Happy & Lucky

第2章 志保side

「ちわっす!!」

また来た…

工藤君が来た

蘭さんも多分一緒ね…

「いらっしゃい…。」

一応挨拶

そして飲み物を出す

「どうぞ。」

「サンキュー!」

「有難う。」

2人とも飲み始めまた2人だけの話をする

やめて…

聞かせないでよ!!

苦しい言葉なんて聴きたくない!!

私はつつい暗い顔になってしまう

「あれ？」

志保さんどうかした？」

蘭さんが私に聞く

「別になんでもないわよ…。」

まただ、また冷たい態度をとってしまった

「でも、何かあったような…」

「何でもないって言うてるでしょ!!
もう聞かないで!!」

あ…

私って惨めだな…

これからは人に優しくして行こうって決めたのに

全くその逆じゃない…

「あ…。

ゴメンね…。

傷つけちゃった？」

蘭さんが謝った

いえ…

違うの…

私が悪いの…

消えたい

ココから消えたいよ…

お姉ちゃんのとコロに行きたいよ…

お姉ちゃん…

今、天国にいるんでしょ？

私のところに迎えに来てよ…

今すぐに…

第2章 志保side（後書き）

Happy「お早うゴザイマス!!」

新一「作者、蘭を傷つけやがって!!」

Happy「新一って鈍いよね…」。

もつと苦しんでいる人がいるのに…。

女の子の気持ちもつと考えなさいよね!!」

新一「何で俺、説教されてんの？」

Happy「自分で考えな!!」

第3章も宜しくね!!」

平成22年5/21 Happy & Lucky

第3章 〽新side〽

灰原、いや、宮野が怒った

蘭に

^{アイツ}蘭が気に入らないのは分かる

でも冷たい態度をとるコトもねえじゃねーか…。

^{アイツ}蘭が帰った後

「宮野…。

どうして^{アイツ}蘭にあんな態度取るんだよ…?」

と宮野に聞いた

「別に貴方の知るコトじゃないじゃない…。」

尤もの答え…

「そうだけど…

じゃあ、あんな態度取る必要もないんじゃない?。」

「関係ないって言ってるでしょ!?

もう出てって!」

追い出された…

「分かった…。」

俺は博士の家を出ようとした

すると

「待って…。」

宮野が止めた

「何だよ？」

俺は聞く

突然、宮野が俺に抱きついてきた

「！

どうしたんだよ！！

何かあったのか…。」

と聞く

「私、辛いよ…。」

工藤君・蘭さんというのが…、
もう、消えたいのよ…。」

ココから…。」

宮野は泣いていた

俺はようやく分かった

宮野が何で蘭に冷たい態度を取ったのか…

「分かった。

分かったからもう泣くな…。」

俺は宮野の頭をそつとなでた

第3章 〽新一 side〽 (後書き)

こんばんわ!!

Happy「これぞ新一×志保!!」

新一「俺の恋人は蘭だぞ!!」

Happy「チツチツチ!!」

甘い新一!

実はこの後…

やっぱやめた!」

新一「??」

まあ、次回も宜しくな!!」

平成22年5/21 Happy & Lucky

第4章　く　蘭sideく

私は探偵事務所に帰った

ホントは新一と帰る予定だったんだけど

『先に帰れ……。』

って言われたから

私、1人きり…

寂しいな…

私、志保さんに嫌われちゃったのかな？

さっきあんなに怒ってたし

私は心配だった…

でも、余計なお世話だったかな…

でも力になりたいよ…

悩んでるんなら力になりたいよ…

余計なお世話かもしれないけど

心配なんだよ…

志保さん

哀ちゃんるときもそうだけど

一人でスグ抱え込んだじゃうから…

そんなコトを思っていると

R R R R R R…

電話が鳴った

「はい、毛利探偵事務所…。」

私は受話器をとった

『蘭さん？

私、志保よ…。』

相手は志保さんだった

「どうしたの？」

『話があるの…。』

近くの喫茶店でお茶しないかしら？』

志保さんが私に聞いてきた

「いいよ！」

じゃあ、いつから??

…うん、…うん…。

分かった。

じゃあ後でね！」

ガチャ

受話器を置き私はたまっていた家事を済ませて待ち合わせた喫茶店に急いだ

でも知らなかった

志保さんから衝撃的なことを聞かされるとは…

第4章 〽蘭side〽（後書き）

H a p p y「こんばんわっ」

蘭「志保さん、何が言いたいんだろう？
分かる？」

H a p p y「作者なんだから当然ッ!!」

蘭「まあ…ね。

次回も宜しくね!!」

H a p p y「私のセリフがあ…」（涙）」

平成22年5/22 H a p p y & L u c k y

第5章 志保side

私は蘭さんと待ち合わせて喫茶店に入った

冷房が少し効いている

早速席に着き店員が水を置いて言ってくれた

「トコロで何？
話って…」

笑顔で聞く蘭さん

言うのが辛い…

でも言わなきゃ

でも…

蘭さんを傷つけてしまう…

『いいえ！

言うのよ！

志保！！

貴女が言わなきゃ何もならないでしょ！』

「貴女にこんなコト言うのも辛いんだけど…」。

私、好きな人が出来たの…。」

言ってしまった

蘭さんはどんな返事をするんだろう…

「えー!!

そうなの!?

相手は誰!?

私、応援するよ!!

頑張れ!!」

………応援された………

でも、“相手”って聞かれると…

「誰々??」

更に聞く蘭さん…

もう…

傷つけてしまう…

許して…

蘭さん

「私、工藤君が好きなの…。」

そういったところで蘭さんが固まった

第5章 く志保sideく（後書き）

Happy「お早うゴザイマス!!」

志保「とうとう告白しちゃったわね…。」

Happy「次回は蘭目線!!」

志保「思ったけどこれで5話達成ね…。」

Happy「ホント！

応援してくれた皆さん！

有難う!!」

志保「これからもこの作品を宜しくね…。」

平成22年5/23 Happy & Lucky

第6章 〱 蘭side 〱 (前書き)

蘭ちゃんの扱いひどいコトになってます！

蘭ちゃんファンの観覧はやめておいたほうがいいのかと…

第6章 〈蘭side〉

「工藤君が好きなの…。」

嘘でしょ？

新一と私は恋人…

だよな？

志保さんが新一を好きってどういうコト…？

「し・志保さん…。」

新一が好きだって…。」

「分かってる…。」

彼方達の愛の隙間になんて私は入れっこないってコトは分かっている…。」

でも、好きなの…。」

貴女を彼から離していくつもりは無いの…。」

志保さんが言う

「いつから好きになったの？」

恐る恐る聞いてみた

「蘭さんは分からないと思うけど
私がまだ灰原哀だった頃

杯戸シティホテルで組織の人と鉢合わせてしまった…。

怯える私を必死に守ってくれたのよ…。

それが1つ…。

そしてもう1つ、工藤新一と組織が対決して私が”ハイリ”という偽名で貴女と会ったときのコトがもう1つ…。

志保さんは話した

「そ・それだけ？」

「どついう意味かしら？」

聞く私に志保さんは聞いた

「だから、新一が好きだって根拠はそれだけ？」

志保さんは少し不敵な笑いを浮かべていた

そして

「じゃあ、貴女はどういう理由で工藤君を好きになったの？」

と同じ質問を聞き返した

「そ・それは…。」

思わず言葉に詰まる…

何でだろう

自分がした質問を返されただけで答えられなくなっちゃうんだろ…

「私が新一を好きなのは…」

幼馴染だし…。

志保さん同様いつも守ってくれたから…。

あと、キツイ言い方だけど

志保さんより私のほうが長く新一といえるんだからね！

志保さんには入る隙なんてない！！」

キツク言いすぎた…

ガタン

志保さんが出て行った

言い過ぎちゃった…

どうしてこんなにキツク言っちゃったんだろう…

こんなつもりは無かったのに…

ただ、志保さんが新一が好きだったっていうだけなのに…

たとえ恋人いたとしても

好きな人に恋をするコトなんて制限は無いのに…

ムキになっていた自分がバカみたい…

志保さんに嫌われたかな…

ううん、絶対嫌われちゃったよね…

だって好きな人が新一だからってコトだけでキツク言っちゃったんだもん…

第6章 〽蘭side〽（後書き）

Happy「どうも!!」

蘭、言い方キツイ。」

蘭「ついカッとなっちゃって…。」

Happy「志保が許してくれれば良いけど…。」

蘭「次回も宜しくね…。」

平成22年5/23 Happy & Lucky

第7章 し志保sideし

「私の方が長く新一といえるんだからね！
志保さんには入る隙間なんてない！！」

確かにそうかもしれない…

私なんかに入る隙間は無かったんだ…

蘭さんの言うとおり

でも伝えなかった

気がつくとは私は、眺めのいい公園で一人で泣いていた

でも、誰も味方なんてしてくれない…

当然ね…

今頃蘭さんはどうしているのだろう…

工藤君と一緒にいるのかしら…

ふと辺りを見回すと若いカップルでいっぱいだった…

そういえばココ眺めがよくてデートではもってこいの場所だったわね…

見るだけで辛くなっていく…

私も工藤君と2人で歩きたかった…

涙が溢れて頬を伝い

地面に落ちる…

そのとき…

私は思った

『迷惑なら米花町^{コト}から出て行こう』と

決心した私は早速家に帰った

博士はいなかった

そんなコトは気にせず荷物をまとめ…

“ 今まで有難う…。 ”

と書いた置手紙を遺し

そして

“ 工藤君、蘭さん末永くお幸せに… ”

宮野志保 ”

と書いた手紙を工藤君の家のポストに入れた

書いてる途中に涙が溢れた…

蘭さんから聴いた言葉を思い出してしまつて…

——皆、ありがとう……。今まで——

感謝を思い米花町から去った……

第7章 志保side（後書き）

Happy「志保、これからどこ行くの？」

志保「教えないわ…。」

そうね、大阪にでも行こうかしら…。」

Happy「平次と和葉に会いに行くの？」

志保「どうかしらね…。」

Happy「次回も宜しくです！」

平成22年5/23 Happy & Lucky

第8章 〽新side〽(前書き)

志保が消えてから1日後です！

第8章 〽新一 side〽

「新一!!」

た・大変じゃ!」

博士があわてて俺の家に飛び込んできた

「どうしたんだ?」

俺は何のコトが分からなく聞いた

「し・志保君が家から消えたんじゃ!!」

「な・何だって!!??」

…アイツが?」

俺は絶句した…

「ト・トコロで新一、キミの家の郵便受けにこれが…。」

博士は俺に1枚の紙を渡した

俺は紙を見た

“工藤君、蘭さん末永くお幸せに…

宮野志保”

と書かれてあった

「博士！

宮野、最近何かおかしいなコトとか、変なコト言っ てなかったか？」

俺は聞いた

「何も言っ てなかったのう…。」

博士は言う

そのときだった

「新一お兄さん…！」

と俺を呼ぶ声

俺の名を呼んだのは

「歩美ちゃん…！」

そう元俺が江戸川コナンだった頃、同級生の吉田歩美だった

「新一お兄さん!!」

志保お姉さん、居なくなっただんでしょ!？」

ビンゴ…

「何で知ってたんだ?」

驚いた俺は聞いた

「昨日、お母さんに頼まれてお使いに行った帰りに志保お姉さんと会ったの…。」

いっぱい荷物を持っていたから

『ドコに行くの?』

って聞いたらこういったの

『ウルサイ人がいるところ…』

って…。

工藤君には言わないでって言ったケド一応知らせておいた方がいいのかなって思ってた…。」

と証言した歩美…

「サンキュ!

歩美ちゃん!」

俺は礼を言い宮野の捜索にかかった

第8章 〽新一 side〽 (後書き)

Happy「こんばんわ!!」

歩美「志保お姉さん…」

何で居なくなっただろう…。」

Happy「さあ…」

って言うかココで言っちゃったらネタ晴らしになるから…。」

」

歩美「次回も宜しくね♪」

平成22年5/23 Happy & Lucky

第9章　く志保sideく

私は、今、大阪に居る

何故かは分からないけど体が自然に大阪行きの切符を買っていたから

ま、大阪なんて全然分からないからブラブラ歩いてたわ…

そうしてると

「志保さんやん!!」

どうしてココに??」

と声がして私が振り返ると

「服部君に和葉さん…。」

工藤君の親友の服部平次さんと彼女の遠山和葉さんが居た

「あら、久しぶりね…。」

私は一応挨拶をした

「何でココにおるんや?」

服部君が私に聞いてきた

「ココじゃあ言いにくいわ。」

近くの店に入って話しましょ？」

私は2人を連れて（案内してもらって）喫茶店に入った

第9章 く志保sideく（後書き）

Happy「今日は短いです！

これから学校で急いで書いたので…。」

平次「何で姉ちゃんが大阪^{コッチ}に来よったんやろ？」

Happy「次回で分かるよ！！。」

平次「次回もよろしゅうな！！。」

平成22年5/24 Happy & Lucky

第10章 〱和葉side〱

アタシは、志保さんと大阪の街中で会って、今、喫茶店にお茶のみに来てる

「何で大阪に来たんや？」

平次が聞いた

まあ、そらそうやわな…

「私、米花町を去ってきたの…。」

静かに言う志保さん…

「な・何で!？」

アタシはついつい少し大きい声を出してもうた…

「消えたかったのよ…。」

工藤君の前から…。

私、彼のコトが好きだったから…。」

少し静かな時間が続く…

平次が口を開いて驚いとる…

アタシも同じやけど…

「ね・姉ちゃん、工藤のコト好きやったんか!？」

驚いてる平次

「ええ…。

そうよ。

悪いかしら？」

冷静な志保さん…

「でも、蘭ちゃんと付き合ってるハズやないんか？」

アタシが聞いた

「ええ…。

そこで蘭さんにそのコトを告白したの…。

そしたら

『私はずっと新一といえるんだから志保さんには私達の中には入れない』

見たいなコトを言われて…。」

!!

嘘やろ？

心の優しい蘭ちゃんがそんなコト言っなんて…

「でも、工藤や皆、心配してるで？
帰らんでええんか？」

平次はまず聞いた

「いいのよ…。」

私を必要としてる人なんていないから…。」

！！

その言葉

やめて！！

アタシに聞かせんで！！

パンツ！！

「か・和葉？？」

アタシは志保さんの頬を叩いた

志保さんは頬を押さえた

「志保さん!!」

何、バカなコト言うてるん!?

アンタ、今までのコトを思い出して!?

1人で生きてきたわけやないやん!!

仲間が居たからやろ!?

それなりに私を必要にしていない

なんて悲しい言葉聞かせへんで!!」

アタシは怒ってもうた

「和葉、もうこれ以上責めんのはやめとき...。」

平次がアタシを止めた

「...ゴメンな。」

志保さん。

でも、志保さんを必要としている人は沢山ある...。

そのコトだけ伝わればええわ...。」

アタシは志保さんに言った

「ええ、

私の方こそゴメンなさい...。

バカなこと言っちゃってしまって

それで和葉さんにお問い合わせがあるんだけど…」

と言う志保さん

「何?？」

少し笑って言うアタシ

「今日だけで良いから貴女の家泊めてもらえないかしら?」

「別にええで…」

志保さんはこういうコトから今日だけウチに泊ることになった

第10章 〈和葉side〉（後書き）

こんばんわ！

Happy「こんばんわ！

和葉の取り乱したところ初めて見たような気がする…。
でも和葉カッコよかった！！」

和葉「そうなん？

おおきに！

アタシ、いっつも取り乱してると思うので…。」

Happy「これで第10話だ！！」

和葉「応援してくれた皆、おおきに！」

Happy「次回も宜しくね！

あと、大阪弁の指摘宜しく！！」

平成22年5/24 Happy & Lucky

第11章 く平次sideく

宮野の姉ちゃんは和葉の家に泊るコトになった

俺は喫茶店での用も終わったし俺の家に帰ろうとしたときやった

ブルルル

俺の携帯がなった

ポケットから携帯を出してあて先を見る

へ工藤く

工藤からか…

俺は携帯の通話ボタンを押した

「服部！」

工藤、どないしたん？」

俺は聞く

大体予想はついておったけど…

「服部か？」

宮野が居なくなつた！

今、オメーのところにいねえか？』

ビンゴや…

急いで宮野の姉ちゃんに小声で

「工藤から電話掛かってきよったで…。」

と伝える

姉ちゃんは

「居ないって言って頂戴…。」

冷静やった

「あー、く・工藤？

み・宮野の姉ちゃんは

い・今、大阪には来てるやのーて…。
来てへんわ！！」

アッカン！！

口が滑つてもうた…

『服部？

今、宮野そこに居るだろう？』

やっぱりやー！

「おらんわ！」

『じゃあ、今から大阪行くわ…。
駅まで迎えに来てくれ！
じゃあな…。』

ブツツ… ツー ツー…

切れてもうた…

「ね・姉ちゃん…。
早く和葉の家行きや…。
く・工藤が大阪^{コッチ}に来るで…。」

「え！？

…もういいわ…。

やっぱり工藤君には敵わないわね…。
私も一緒に行くわ…。」

というコトで俺らは新大阪駅に工藤を迎えに行った

第11章 く平次side（後書き）

Happy「平次って嘘つけないんだね…。」

平次「やかましい！

同じコト何回も言うなや！！」

Happy「心が狭いな…。」

平次「まあ、ええわ…。」

次回もよろしゅうな！」

平成22年5/25 Happy & Lucky

第12章 〱新side〱

俺は宮野を迎えに行くために大阪行きの新幹線に乗車中

「まもなく新大阪、新大阪〱降りる際は忘れ物にご注意ください」

アナウンスが聞こえて俺は駅に到着し、新幹線から降りた

「おお!!」

工藤オ〱!!

コッチやコッチ!!」

服部の馬鹿でかい声のお陰ですぐに服部と合流するコトが出来た

宮野も一緒だった

「宮野帰るぞ…。」

俺は宮野に言う

「…イヤよ。」

!!!!!!

予想外の答えだった

「何でだよ!？」

少し怒った様に聞く

「私は帰ることを許されない人間なのよ…。」

ハア!？

意味分からねえ

「どういうコトだ!」

「蘭さんに言われたのよ…。」

『新一と私の隙間に入るコトは出来ない』ってね…。
それから私は米花町を去るコトにしたのよ…。」

!

蘭^{アイツ}がそんなコトを言ったのか!?

「オイ!

それ本当かよ!？」

「貴方に嘘言っても通用しないでしょ？」

冷静な宮野

「とりあえず。

帰ろうぜ…。

蘭との決着はそれで付けければ良いだろう?。」

宮野は少し黙っていたが

「…分かったわ。

じゃあ帰りましょう?

服部君、和葉さん迷惑をかけたわね…。」

宮野は礼を言っていた

「そんなん気にせんでええよ!!。」

和葉ちゃんが笑う

俺は米花町行きの新幹線の切符を買って宮野と一緒に米花町に帰った

第12章 〈新一side〉（後書き）

Happy「お早うゴザイマス！」

今回は新一と蘭・そして志保との決着のお話です！」

志保「どうなるコトやら…。」

Happy「まあ、頑張つて…！」

志保「次回も宜しくね…。」

平成22年5/26 Happy & Lucky

第13章 〈園子side〉

私は今、蘭の家に向かっているの

何でも志保さんにきついコト言い過ぎたって私に電話で掛かってきて…

毛利探偵事務所

ココに来るのも久しぶりね…

そして中に入っていった

「蘭！

来たよ」

私は一応元気に挨拶をした

「あ、園子…。

うえ〜ん…！

志保さん泣かせちゃったよお…。」

私に泣きつく蘭

こついう姿は幼い頃から変わんないわね…

「まあまあ…。」

「1回蘭も座ろうよ！」

私と蘭は探偵事務所から3階のリビングに向かった

中に入り私は適当に座った

蘭が私のところへお茶を持ってきてくれた

「ありがとう…。」

どうして蘭は志保さんを泣かせちゃったの？」

とりあえず今に重要な質問を蘭に聞いた

「私、志保さんに妬いちゃったの…。」

小さい声で言う蘭

「それどういうコト？」

気になった私は聞いた

「志保さん、新一のコト好きだったの…。
だから悔しくて…」

『私は新一と長く居るんだから！

志保さんには入る隙間なんて無い』

って言っちゃったの…。」

あちゃ…

こりゃダメだな…

「それから志保さんは？」

とりあえず聞いた

「分らない…。」

喫茶店出て行ったから…。」

と蘭

「どうして追いかけなかったのよ！？」

追いかければ間に合ったかもしれないじゃない？」

「だって…。」

お金払わなかったら補導されちゃうし…。」

…確かにそうだけど

貴方、志保さんとお金…

どっちが大事なの??

そのとき

「ピンポン」

探偵事務所のインターホンがなった

「あ、ハイ！」

蘭は出掛かっていた涙をぬぐい下に下りていった

少しして蘭が戻ってきた

「工藤君!？」

志保さんも…。」

探偵事務所を訪ねたのは志保さんと新一君だった

第13章 く園子sideく（後書き）

Happy「こんばんわ」

園子「志保さんも傷ついたわね…。」

Happy「でもこれからすっごい話し合いになってきてきて蘭が泣いちゃったら…」

園子「任せた!!」

園子「OK!任せて頂戴!」

H・園「次回も宜しくね!!」

平成22年5/26 Happy & Lucky

第14章 〈志保side〉

私は蘭さんに案内されて3階のリビングにいる

蘭さんが工藤君と私の分のお茶を持ってきてくれた

「有難う…。」

お礼を言ってお茶を1口飲んだ

「蘭。

さっきのコトなんだけど…。」

工藤君が話題を持ちかける

「…。」

うん、悪いなって思ったの…。

ゴメンね志保さん…。」

蘭さんが私に謝った

「…。」

私のほうこそ少し脱線していたかもしれないわね…。

私も謝るわ…。」

私も蘭さんに謝った

「よかった！

志保さんが許してくれて…。」

笑顔で言う蘭さん

「トコロで志保さんは新一君のコトが好きなの？
嫌いななの？」

園子さんが聞く

「…ちよつと工藤君は出て行ってもらえるかしら…。」

私は工藤君に頼んだ

「何で？」

と工藤君

鈍い…

「バカね…。」

聴いてはならない乙女の話を知りたいの？」

少し睨んでいった

「…別に…。」

「そ。

なら出て行つて？

たぶんすぐ終わるから…。」

工藤君は出て行つた

「それで話題に戻るけど

新一君のコトどう思ってる？」

再び園子さんが聞く

「…蘭さんには悪いけど…

私工藤君が好き／＼／＼」

言ってしまった…

また何か言われるのかしら…

…何で私、蘭さんを責めてるのかしら

「そ！

これで友達じゃなくなっただね!!」

え…?

「ライバルだね!!」

……ライバル……

「ええ…。

そうね…。

でも蘭さんと工藤君はもう付き合ってるんでしょ?

私が入る隙なんて…。」

「いい方法があるわ!!」

突然園子さんが言う

」「どういう意味？」「」

私と蘭さんが聞く

「だから今、どこかで志保さんのコトを待ってる新一君をここに連れてきて、

蘭と志保さんのどっちが好きかを選んでもらうのよー！ー！」

第14章 く志保sideく（後書き）

Happy「お早うゴザイマス！」

新一「女性軍は何で恋の話が好きなんだ？」

Happy「分かんない。」

私もあんまり恋バナ好きじゃないから…。」

新一「次回も宜しくな！」

Happy「評価、感想お待ちしてま〜す」

平成22年5/27 Happy & Lucky

第15章 〱新 side〱

俺は園子に呼ばれて3階に入った

そこには女性軍がすごく俺を見ていて俺はスゴクビクビクしていた

「んで、何だ？」

俺は聞く

「単刀直入に聞くわ。

新一君は蘭と志保さんのどっちが好きなの？？」

はい？

何てコト聞くんだ？

しかも蘭と宮野なんて…

俺の恋人は蘭のはずだろ

園子もそのコトは知ってるはずなのに…

「そ・それは…」

答える言葉が出てこない

宮野…

蘭…

どっちも同じくらい大事な奴…

でも恋愛感情でどっちが好きか…なんて言えねー…

「1週間、時間を上げる…」

1週間後に答えを出して。

もし答えが出なかったら…

志保さんには悪いけど正式に新一君と蘭が恋人ってコトにするわ…。」

園子と言う

「わかった…。」

1週間後だな…。」

俺は返事をして宮野と一緒に探偵事務所を出た

でも思わなかった

俺の心が変わってしまったとは…

第15章 〈新一side〉（後書き）

Happy「2回目の更新！」

新一「俺はどっちを選ぶべきなんだ…。」

Happy「迷っちゃうよね…。」

大切な人のどっちかを選ぶなんて…。」

新一「…ハア…。」

Happy「まあ、頑張つて…。」

新一「次回も宜しくな…。」

平成22年5/27 Happy & Lucky

第16章 〈新一side〉（前書き）

舞台は帝丹高校です！

あと新一のクラスの担任が分からないので勝手に作ってしまいました
いわゆるオリキャラって奴です

江木 渉^{えぎ わたる}（41）：帝丹高校に来てちょうど1年

新一のクラスを受け持つ

教科担任では国語

第16章 〱新side〱

2 - B

教室がざわついてる…

何もしたくない…

たとえそれが事件だとしても…

「…う！

工藤！！」

！！

我に返った

「ああ…。

ゴメン…。

何だっけ…。中道」

中道の言葉で俺は我に返った

「だから昨日のサッカーを見たか！？
ヒデのゴール凄かったよな！！」

「ああ…。」

ワリイ…。

俺、昨日用事があつて見れなかった…。」

俺は断った

話したくなかったから…

どっちかを彼女にするかを決めなければいけなかったから

そのとき

ガラッ

担任の江木が入ってきた

全員が席に着いた

「今日は転校生が居る…。
入って来い…。」

江木の指示で転校生が入ってきた

「え!？」

蘭と園子の声が静かにとんだ

俺はそんなコト正直言ってどうでもいいのだ

「自己紹介を頼む。」

「今日から帝丹高校に通うことになった宮野志保です…。」

…宮野？

今、転校生「宮野志保です。」って言ったか!？

俺はとつさに黒板の方を向いた

宮野だ…

「じゃあ、皆、仲良くしてやってくれ。

宮野の席は…。」

あ、工藤の隣が空いてるな…。」

そこに座ってくれ…。」

宮野は返事をして俺の隣に座った

そして1時間目の授業が終わり全員が宮野を取り囲んだ

俺はチラリと宮野を見る

宮野は表情が真顔だった

つつい苦笑いしまう…

「おい。

工藤！

毛利と夫婦になったくせにもう離婚かよ

まあ、どっちも美人だから捨てがたいって言うのは分かるんだけどさ…。」

今度は会沢か…

「バーロ／／／／

んなじゃねーよ！！！」

俺は拒否った

あと4日

4日で宮野と蘭の運命が決まる日だ…

第16章 〈新一side〉（後書き）

Happy「こんばんわ」

中道「工藤って、ああ見えて結構浮気してたりして…。」

会沢「あつ！それ俺も分かる…！」

Happy「新一って浮気オタクなの？」

中・会「さあ…。」

Happy「テキトーなコトいうな…！」

新一に言いつけるよ…！」

会沢「勘弁してくれ…。」

中道「今、言ったコトチャラにして…！」

Happy「OK…！」

次回も宜しくです」

平成22年5/28 Happy & Lucky

第17章 〈志保side〉（前書き）

今日の話は志保ちゃん倒れます

ですので途中から第三者の目線になります

オリキャラ設定♪

知名樹音（ちな きおん24）…教科担任は数学。

や

新米さんでドジが多いが頑張り

第17章 〈志保side〉

工藤君…

貴方はどっちを選ぶのかしらね…。

まあ、大体予想はついてるわ

蘭さんでしょ？

こんな元犯罪者の私と付き合うなんて嫌なものね…

でも、1回だけでいい…

貴方の隣を歩いてみたかった

願いはそれだけだったのに…

届かなかった…

好きっていう気持ちがかれ藤君に…

私は胸が締め付けられるように悲しい

ナンデ…

ナンデコンナニムネガクルシイノ？

もう分かってるのに…

私の恋愛は終わったのに

胸の痛みが止まらないの…

もう

ダメ…ね

>ドサッ<

「宮野さん!?!」

志保はその場に倒れてしまった

第17章 く志保side（後書き）

Happy「志保はどうなってしまった!？」

志保「…さあ？」

Happy「さあ…? ってねえ…。」

志保「この話は貴女が書いたんでしょう？」

その話が私に分かるはずが無いじゃない。」

Happy「そうだけどさ…」

予想してみてよ…。」

志保「何で？」

Happy「想像の場が広がって面白くなるよ。」

志保「私はパス…。」

Happy「ええ〜〜〜。」

平成22年5/30 Happy & Lucky

第18章 〈新side〉

>ドサツ<

突然俺の隣で音がした

振り向くと

「宮野!？」

宮野が倒れていた

数学の教師、知名が駆け寄った

「宮野さん？

大丈夫!？」

さすがに教師は教師でも新米

慌てているようだ

俺は席を立ち

宮野の額に手を当てた

「熱がある...。」

知名は俺のほうを見た

「え？」

驚いている…

まあ、当然だ…

「先生、俺が保健室へ連れて行くから授業を再開してください。」

知名は「お願いするわ」といい

俺は宮野を抱いて保健室に連れて行った

保健室に行くと

「用事が入りました。すぐ戻ります。」

調子の悪い人がいたらベッドで横になっていてください。」

と置き紙があり俺は宮野を保健室のベッドに寝かせた

一応、保健室にあった熱さまシートを宮野の額にはる

一段落付いたので俺は教室に戻ろうとした

そのときだ

「くどう…くん…。」

宮野が起きた

「目、覚めたか？
調子はどうだ？」

俺は宮野に聞く

「大丈夫よ…。」

俺は再び宮野の元に戻った

「熱はあまり高くないから一晩寝れば治るだろう…。」

容態を伝える

「そ…。

ありがと…。」

礼を言う宮野

「オメー、最近寝てねーだろ？」

「ど…どうして？」

驚いたように宮野が聞く

「今朝来たときから顔色がよくなかったし授業中に眠たそうにしていたから…。」

「さすがね…。」

「いや、普通の人でも分かるから…。」

俺は言った

「ふ、それもそうね…。」

私、怖かった…。

工藤君がどっちを選ぶんだろうって
怖くて眠れなかったの…。」

宮野が言う

「そうだったのか…。」

俺は納得した

「工藤君、ちょっと耳貸して?。」

宮野が言う

俺は宮野に耳を近づけた

「…ッ／／／」

宮野は俺にキスをしていた

そのとき

「宮野さん？」

蘭・園子が入ってきた

第18章 〈新一side〉（後書き）

Happy「うわっ!!」

どうなるのアンタら…。」

新一「んなコト知るか!？」

Happy「そんなに怒んないの!！」

新一「次回も宜しくな…。」

平成22年5/30 Happy & Lucky

第19章 〈蘭side〉

私は授業が終わったから園子と一緒に志保さんの様子を見に行った

「志保さん？」

ウソ…

だよ？

志保さんと新一がキスしてるなんて…

「蘭!!」

新一が私に気付いたらしい…

「新一君!!」

志保さん、ちょっといいかしら？」

園子は保健室から志保さん・新一を連れて屋上に行った

今はちょうどお昼の時間だから

屋上に出ても大丈夫…

「志保さん・新一君、貴方どういふことしたか分かってるの？」

キツイ口調の園子

「園子さん、工藤君はこの件に関しては関係ないわ…。
全て私が悪いのよ…。
ごめんなさい…。」

志保さんが謝った

「悪いケド、私は志保を信用できない…。」
あなた

園子が言った

「園子！
そこまで言わなくても良いだろ！！？」

えッ？

新一、今、かばった？

志保さんのコトかばった？

私のコトなんてどうでもよくなったのかな…

バカね…

私…

別に新一が志保さんのコトをかばったって私には関係ないのに…

でも何でだろう。

涙が止まんないよ…

「もう良いよ。園子…」。

何かもう私は2人の中に入り込めない気がするし…

新一・志保さん好きにしてね…？

私のコトなんてどうでも良いから…」。

とうとう言ってしまった

志保さんはすぐ、屋上から出て行ってしまった

これも全て私のせい…

私がキスしていたところなんか見なければ…

2人はこんなコトにはならなかった

全て私のせい…

第19章 〈蘭side〉（後書き）

Happy「お早うゴザイマス」

蘭「全部私のせいなの…。」

Happy「蘭…。」

蘭「だって新一と志保さんキスしてたし。

もう私には入る隙間もございまして感じてたし…。」

Happy「多分まだ蘭の話が続くと思うから今回はココでさよなら…。」

蘭「だって…」（↑永遠に続く）

平成22年5/31 Happy & Lucky

第20章 く志保sideく（前書き）

「死」という言葉が多く使われていますので嫌な方は観覧しないことをお勧めします。

また今書いたことに関しての苦情、ブーイングなどは受け付けませんのでご了承ください。

第20章 志保side

私は、どうしてこの世に生まれてきたんだろう

ただただ人に迷惑かけてばかりで

自分が1人でやり遂げたことなんて

1ツモナイ

全て私がやり遂げた場所にはいつも、
工藤^{かれ}君が居た…

ココまでこれたのも彼もお陰なのに…

蘭さんにまで迷惑かけちゃった…

ホントに私は生きていることを許される人間なの？

死なくていい人間？

人間らしく生きてる人間？

考えてみると分からない…

もうこの世から消えたい…

楽になりたい…

お姉ちゃん・お母さん・お父さんと天国で幸せに暮らしたい

私が居なければ、皆は苦しむコトなく生活できた…

ホントに死にたい…

だって幸せは私に來ないんだもの…

1回でもいい

幸せが欲しかった…

さっき、倒れたとき工藤君必死に私を呼んでくれた

それだけでも嬉しかったのに…

最期に伝えたかった言葉…

貴方のコトが好きでした…

第20章 く志保sideく（後書き）

Happy「志保。

めっちゃ可哀相…。」

志保「次回はどうなるのかしら…。」

Happy「想像して考えてね」

志保「嫌よ…。」

Happy「ああー！！

これで20話達成だ」

思いつきで書いた話がこんなになるなんて…。」

志保「応援してくれた皆さん有難う。

これからも宜しくお願いね？」

平成22年5/31 Happy & Lucky

第21章 平次side (前書き)

今度は平次と和葉が東京に来ます

第21章 く平次sideく

俺は今、東京に来とる

和葉が宮野の姉ちゃんのコト結構心配しとったから…

俺は和葉を連れて阿笠の爺さんの家に行った

チャイムを鳴らし爺さんが出てくるのを待つ

扉が開いて爺さんが出てきはった

「おお

服部君に和葉君か…。

まああがりなさい…。」

爺さんに案内されて俺らはリビングに行った

「なあ、宮野の姉ちゃんはおる?。」

俺は聞いた

「それがまだ帰って来てないんじゃない?。」

帰宅部じゃからもう帰っていても言い頃なんじゃがのお…。」

「まだ帰って来てへんか…。」

そのとき

「はーかせ!!」

「ゲームをためしに来ましたよ!」

「博士」。

何かくれよ!

もう俺、腹ぺこぺこ。」

と元気な声が聞こえた

「ああ!!」

平次お兄さんと和葉お姉さん」

工藤の友達の1人の女の子が俺と和葉の名前を言う

「お久しぶりです!」

とまた

「博士!

何かくれよ!!」

相変わらず腹ぺこな奴もおるんやな…

「何で平次さんと和葉さんが居るんですか?」

そばかすの男の子が聞く

「ちょっと宮野の姉ちゃんに用があつてなあ…。」

俺がそういつと

女の子の顔色が変わった

第21章 く平次side（後書き）

Happy「お早うゴザイマス」

歩美「ハア…。」

Happy「どうしたの？」

歩美「実はね…。

さっき…。」

コソコソ

Happy「マジで…!？」

歩美「続きを知りたい人は次回を見てね!」

Happy「ちなみに今日は私の徒歩研修です…。

面倒くさい…です!」

歩美「頑張ってね」

平成22年6/2 Happy & Lucky

第22章 く歩美side（前書き）

少し会話だけのシーンがあります！

一応忠告しておきます

あと苦情などが米粒ほどでもあれば感想欄にお書きください
でも良い感想もくれると嬉しいです

第22章 く歩美sideく

私、志保お姉さんのコト全部聞いちゃったんだ

志保お姉さんから

でも皆には言わないでって言われた

元太君・光彦君にも平次お兄さんにも・新一お兄さんにもあと蘭お姉さんや和葉お姉さんにも

私は約束したの

だから何もいえないよ

約束は守らなきゃいけないんだもん！

約束破ったら嘔吐きになっちゃうもん！

志保お姉さんが言ったコト

それは

時間はさかのぼって1時間前

「あ！

志保お姉さん！」

私は博士の家に行くために元太君と光彦君を迎えに行く途中に志保

お姉さんに会った

「歩美ちゃん…。」

私に気付いた

私は志保お姉さんのところに行った

「何してるの？」

泣いてるの？」

志保お姉さんは泣いていた

「何でもないわよ…。」

志保お姉さんは涙の顔を隠していた

「でも…。」

「何でもないから心配ないわ…。」

トコロで歩美ちゃんだけに教えたコトがあるの…。」

このコトは誰にも内緒よ？」

「何々？」

「私ね、杯戸シティホテルの屋上に少しだけ空を眺めに行くの…。」
皆にはこのコト内緒にしているね？」

志保お姉さんは私にこういった

「死なないでね？」

「え??」

志保お姉さんが目を点にする

「だって志保お姉さん。

灰原哀ちゃんのおきにもココから消えたいみたいなコト言ってたから。

心配しちゃったんだ

へへへ…♪」

「歩美ちゃん…。」

「でも歩美からも約束あるんだ!!

絶対、自殺なんてしたらだめだよ?

歩美泣いちゃうから!

皆泣いちゃうからね?」

私と志保お姉さんは指切りをした

現在

絶対守らなきゃ！！

約束！！

「なあ、何か知ってるんか？」

平次お兄さんが私に聞いた

第22章 歩美side（後書き）

Happy「今回は平次と歩美の会話が中心になると思います」

歩美「次回も宜しくね」

平成22年6/2 Happy & Lucky

第23章 〱和葉side〱

平次が聞いた後

歩美ちゃんはただ黙っていた

歩美ちゃんが、何か志保さんのコトで知つとるコトでもあるんやろか…

「なあ、歩美ちゃん。

志保さんのコトで何か隠してることもあるん?」

アタシは一応聞いてみた

「ち・違う!!

歩美何も知らない!!」

否定した…

でも顔から何か隠してるコトが分かる…

「ホンマかいな?」

平次が聞いた

「ホントだよ!!

歩美は知らないよ!!」

ウソ…

それは平次もアタシもよく分かつた

「歩美ちゃん。

平次もアタシも怒らんから

何があつたか聞かせてくれへん？」

アタシは頼んだ

「約束…。」

歩美ちゃんが小さい声で言う

「え？」

聞き返す平次

「このコトは、志保お姉さんに内緒にして！って言われたの！！
だから言えないよ！！」

でもね、志保お姉さんは嘘ついて死ぬつもりだと思つよ…。」

「何やて！？」

平次が言う

「何でそんなコトが分かるん!？」

アタシも正直驚いた

「さっき、死んだらダメだよ!って言った時に
約束したんだけど…」。

志保お姉さんの目が『ゴメンね。歩美ちゃん…』。って言ってる
様だったんだもん…。

だから歩美、捜しに行く!!!」

歩美ちゃんは博士の家から飛び出していった…

平次も追いかけた

勿論アタシも…

でも…

志保さんが自殺するなんて…

そんなん絶対認めへん…

第23章 く和葉sideく（後書き）

Happy「お早うゴザイマス」

和葉「志保さん、どうなってまうの!？」

Happy「歩美目線で明らかになるよ」

和葉「イマイチ信用出来んな…。」

Happy「ヒドッ!」

和葉「次回もよろしゅうね」

平成22年6/3 Happy & Lucky

第24章 〈歩美side〉

私は、志保お姉さんを捜していた

心配だから

それに…

歩美の大切な人だから！！

和葉お姉さんと平次お兄さんも歩美の後を追ってきた

光彦君も元太君も…

でも、杯戸シティホテルまでまだまだ距離がある

私、早く志保お姉さんに会いたい

志保お姉さんの力になりたい！！

自殺をしないでほしいよ！！

早く！！

私の足！！

もっと早く！！

もっと早く走ってよ！！

どうか…

志保さんが無事でありますように…

自殺を止めますように！

私の思いはそれだけだった

第24章 く歩美side（後書き）

Happy「メツチャ短いです！」

歩美「ホント！
短すぎだね…。」

Happy「あと、お気に入り登録者、減ってしまいました…。
期待にこたえられなかったのが残念です…。」

歩美「次回も宜しくね♪」

平成22年6/3 Happy & Lucky

第25章 志保side

私の目の前には今、杯戸町の町が少し見える

少し落ち着くな…

そろそろ…

逝こう…

お姉ちゃんの下に…

私は靴を脱いでビルの手すりを越えようとしたときだった

「自殺なんてしちゃダメだよ!!」

え…

今、歩美ちゃんの声しなかった…

気の…せいよね？

「自殺なんてしちゃダメ!!」

ホントに聞こえた…

振り向くと歩美ちゃん・円谷君・小嶋君がいた

「自殺なんてしないで下さい!!」

円谷君…

「俺も悲しいぞ!!」

小嶋君…

「志保お姉さん!!」

歩美ちゃんが私に抱きついた

そのあとから

和葉さん・服部君が来た

そして…

「く…どうくん?」

工藤^{かれ}君が居た

「宮野！！
ゴメン…。」

工藤君が私に謝った

「え…？」

「俺が宮野を止めなかったら宮野は自殺なんてしないで済んだ…。
俺が宮野を止めなかったから…。」

工藤君…

優しいのね…

こんな私…

優しくしてくれたのは貴方だけよ

もっと好きになっちゃうじゃない…

諦めが付いてココで逝ってしまおうって思ったのに…

「志保お姉さん!!」

歩美ちゃんの言葉に皆反応する

「自殺なんてしちゃダメだよ!？」

歩美が付いてるから!!

光彦君も元太君も和葉お姉さんも平次お兄さんも新一お兄さんも、
みんな、志保お姉さんの見方だから!!」

歩美ちゃん…

バカね

私

こんな小さい子に大切なコト教えられちゃうなんて…

「ええ…。

有難う。

歩美ちゃん」

私は出てきそうになった涙を拭いて空を見上げた

一瞬、お姉ちゃんが微笑んでるように見えた

第25章 〈志保side〉（後書き）

Happy「お早うゴザイマス」

志保「歩美ちゃんには負けたわね…。」

Happy「良い子だもんね！

歩美はさ！！」

志保「そうね…。」

次回も宜しくね？」

平成22年6/4 Happy & Lucky

第26章 〈新side〉(前書き)

志保が自殺をやめてから1・2日後です!!

第26章 〈新一side〉

今日は宮野と蘭の運命が決まる日…

毛利探偵事務所

事務所曰く蘭の家には

園子・宮野・蘭がいた

「新一君の判定はどっちなの？」

園子が聞く

もう大丈夫…

もう迷いは無い

自分に自身を持て！！

「俺の好きなヤツは…」

蘭ゴメン…

オメーを傷つけちまって…

「宮野志保…。」

俺はとうとう言った

自分の中にたまっていたモノを吐き出す様な気持ちで…

「わた…し？」

宮野は驚いていた

蘭は戸惑っていた

「ゴメン蘭…。」

俺、考えたら宮野が好きだった…。

オメーを傷つけちゃったな…。

でも、俺の気持ちは変わらない。

俺は宮野を愛してる…。」

と俺は言った

「いいのっ…。」

新一と志保さん御似合だもの…。

私、悔しいけど志保さんと新一の恋。

応援するね！！

新一、志保さんが寂しい思いしないようにしなさいよ！！

志保さん、新一が貴女に何かしたらすぐ私の元に来て！

回し蹴りとかしてあげるから…。」

蘭は笑顔を作って俺を応援してくれた

でも俺は、可哀相でたまんなかった

第26章 〈新side〉（後書き）

Happy「どうも」

新一「俺の恋心が動いたのは何で??」

Happy「自分で思った心を何で作者の私に聞くの??」

新一「次回もヨロシクな!!」

平成22年6/6 Happy & Lucky

第27章 志保side

今日は結婚式…

この間工藤君に「結婚してください」ってプロポーズされた…

最初は戸惑ったけど

OKの返事をし、婚約届けを出し、今に至る…

私の控え室では

私1人、慌しく準備をしていた

初めてのウェディングドレス…

鏡を見ると

自分じゃない自分を見てるみたいで自然に笑みがこぼれる…

「志保お姉さん!!」

私が後ろを振り向くと

「歩美ちゃん…。」

歩美ちゃんと、小嶋君・円谷君がいた…

「ウワッ志保お姉さんきれい!!」

「ありがとう…。」

私は礼を言った

人にこんな風に言われたのって初めて…

ものすごく嬉しかった

「志保さん!!」

また声をする…

「あら…。」

蘭さん、園子さん…。

和葉さん…。」

3人が私の控え室を訪れた

「志保さん、綺麗やね!!」

和葉さんがそういつて私に笑顔を向ける

「ありがとう…。」

「さっき新一の控え室にお邪魔しに行ったの!

新一ったら緊張しまくってて手と足が同時に同じところから出てきたのよ!!」

蘭さんが笑いをこらえながらも私に話す

「そうなの…。」

私も想像するとおかしくなって少し笑ってしまった

そんな感じで控え室はにぎやかだった

「じゃあ、歩美たちは新一お兄さんの部屋に行ってくるね!!」

歩美ちゃんらはそういつて私の控え室を後にした

第27章 く志保sideく（後書き）

Happy「お早うゴザイマス!!」

志保「何か緊張するわね…。」

Happy「次は新一の控え室!!」

志保「次回もよろしくお願いね…。」

平成22年6/7 Happy & Lucky

第28章 〱新side〱

キンチョーするな…

今日は結婚式…

俺は自分の控え室にいた

少しドキドキしていたけど暇なときのために小説を1冊持ってきていた

読もうとすると…

『コンコン!!』

控え室の戸がノックされ

「新一お兄さん!!!!」

と声が聞こえた

アイツらだな…

「どーぞ!!」

俺がそういうと

戸が開いて

「新一お兄さん久しぶりだね!!」

歩美ちゃん・元太・光彦・博士が入ってきた

「ウワ…／／／／

新一お兄さんステキだね!!」

歩美ちゃんがほめてくれた…

「サンキュー歩美ちゃん!!」

「新一兄ちゃんもこういう格好すると結構変わるな…。」

元太…

余計だぞ…

「工藤、子供に囲まれて幸せやのう…。
自分もこういう子供将来ほしなっただか？」

「げ…服部!!!!」

ヤベー!!

「何や？」

せっかく大親友の結婚式に来てやったっちゅうのに。
その「げ…」っちゅうのは…。」

「ハハハ…。」

俺は苦笑い…

「平次お兄さん!!」

歩美ちゃんは服部の所に行った

「そうそう、さっき和葉たちが工藤の控え室行ったときにな、俺は宮野の姉ちゃんの部屋に行ったんやけどメツチャ綺麗になつてんで!!」

ニヤニヤしながら言う服部

「マジで!?!」

ついつい俺も少しテンションが上がってしまう…

「うん!

志保お姉さんとっても綺麗だったんだよ!!」

歩美ちゃんも目を輝かせて言う

『早く見て』

俺は心の中の自分を落ち着かせた

博士が

「歩美君・元太君・光彦君。
もう少して式が始まるから戻るぞ!」

と言

3人は

「はい!!」

と言って式場に行った

そのときに歩美ちゃんが

「これ、歩美からの手紙!!」

と言って俺に1つの封筒を渡していった

そして皆で式場に戻っていった

第28章 〈新一side〉（後書き）

Happy「お早うゴザイマス!!」

新一「歩美ちゃんからの手紙ね…。」

Happy「捨てちゃダメよ!!」

女の子って純粋な子多いから…

特に歩美はね…。」

新一「そうなのか？」

Happy「うん」

新一「次回もヨロシクな!!」

平成22年6/8 Happy & Lucky

第29章 〈新一 side〉

俺は歩美ちゃんから受け取った手紙を見た

服部が横から覗き込んだ

「え〜っと…」

『新一お兄さんへ』

志保お姉さんとの結婚おめでとうございます！

歩美は心から祝福します。

歩美の将来の夢は最初コナン…じゃなくて新一お兄さんと結婚することでした…。

でも哀じゃなくて志保お姉さんに負けてしまいました。

悔しかったけど志保お姉さんと新一お兄さんお似合いだもん！

あ、ゴメンね…。

新一お兄さんとかコナン君とか志保お姉さんとか哀ちゃんとか
ごちゃ混ぜで…。

でもホントに悔しかったです。

早く新一お兄さんと志保お姉さんの子供が見たいな♪

ホントに結婚おめでとう…！！

末永くお幸せに！

吉田歩美より』だつて。」

俺が読む

「なあ、工藤、

手紙の端っこ、少し湿った後あるやろ…。」

服部が手紙の端を指す

俺は指差した部分を見た

これって…

ナミダ
雫…

歩美ちゃんは…

ナミダ
雫をこらえて書いてたのか？

もしそうなら可哀相なコトしたな…

でも、今、歩美ちゃんに聞くわけにもいかず

俺は式が終わってから話そうと思った

第29章 〽新一side〽（後書き）

Happy「これから学校です!!」

新一「次回もヨロシクな!!」

平成22年6/9 Happy & Lucky

最終章 キミがいるから生きていける（前書き）

最後は第三者目線で行きます!!

最終章 キミがいるから生きていける

式が始まり新一はバージンロードにいた…

皆の目が新一に向く

そこへ扉が開いて

阿笠博士と志保が腕を組み入ってきた

博士は緊張しているらしく最初の方だけだが

手と足が同じ位置から同時に出てきてしまい皆の笑いものになってしまった

志保はそのとなりで少しだけ呆れていたが

少し笑みを浮かべていた

そして新一の元まで歩き終えた…

本当の結婚式だ…

「工藤新一、貴方は妻の宮野志保を病める時も
困難があっても愛し続けることを誓いますか？」

「ハイ、誓います…。」

志保も紳士と同じことを言われ誓つと返した
指輪の交換…

そして

「最後に、誓いの口付け…。」

新一と志保は向かい合い

キスをした…

そして外に出てブーケを投げた…

ブーケは見事に蘭のところに…

隣で園子が

「蘭！

次はアンタだつて！！

良かったね！！」

と少しテンションがあがっていた

蘭は驚いていたそうだ…

そして式が終わり2人は工藤邸に帰っていった

く工藤邸く

「ねえ、工藤君、

一生私のところから離れないでよ?」

志保が少し色っぽくいう

「分かってるさ…。」

俺は、オメーがいないと生きていけないよ…。」

新一は言い終わった後

また志保とキスをした

く6年後…く

桜の咲く季節…

「コナン!」

遅れちゃうよ!」!」

「わぁってるって!!」

「ったく、藍奈あいなは早いんだっつーの!!
じゃ、行ってきます!!」

そう、新一と志保の間に出来たかけがえのない子供…

コナンと藍奈

双子である…

「今日であの子達も私達が出会った小学校1年生ね…」。

志保は2人の姿を見て微笑んでいた…

新一もその姿を見て微笑んでいた…

最終章 キミがいるから生きていける（後書き）

Happy「ども」

この話もとうとう完結です!!」

志保「長かったような短かったようなね…。」

新一「そうだな…。」

コナン「ココまで読んでくれた皆さん!」

藍奈「有難うございました!!」

Happy「では」

巻き込まれていく人々 もヨロシクです」

ではココで子供達の紹介…と6年後の工藤邸について

工藤新一…28歳、探偵業を続けていて警察の手伝いにも行っている

工藤志保…29歳、無職で専業主婦だが最近、科学や、医療に関する仕事に関する仕事に就きたいと考えている

工藤コナン…双子で『兄』由来は、勿論江戸川コナンから…

性格は明るく、サッカーが得意（その所は新一似! ?）

また、頭も切れるが事件現場には連れて行ってもらえない…

工藤藍奈…双子の妹だが、兄さんと呼ばずコナンのコトは呼び捨て…

性格は冷静だが明るい…

また科学や医療のコトに関しては詳しい

また、恐ろしいことを普通に言う…（志保似かも…）

しかし、お化けは苦手中の苦手…である

以上です！！

読んでくれて有難うございました！！

平成22年6/10 Happy & Lucky

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5191/>

キミがいるから生きていける...

2010年10月10日13時51分発行